

臨床試験セミナー 統計手法入門コース (CT 入)

参加者の声 ～参加者アンケートより～

■ 臨床試験のデザイン：統計的側面

- 臨床試験を行う上での試験デザインの重要性、結果の良さではなく「方法としての良さ」で選ぶのが合理的であることを改めて認識できた。今までの経験で行ってきた統計解析の考え方や試験デザインの組み方を理解できました。
- 統計ソフトでなんとなく行っていたことの理屈が理解できた。
- 統計学による結果の解釈の仕方と限界、医学的な考え方との区別について理解できた。
- 統計用語の解説（発生割合と発生率の違い、効果と関連の違い、95%信頼区間の考え方など）をしていただけてタメになりました。
- 統計学の基礎について時間をかけて丁寧に説明いただいた点が良かったです。

■ カード実習 1

- 具体的な仮想データを使用して演習できて有意義でした。また、参加者個々人が違うデータをランダムに抽出して解析を進めていく点が非常に興味深いものでした。
- オンラインでも共通のカードやデータ入力のエクセルなどを使って実習ができ、非常にわかりやすかったです。また実際にサンプリングや計算を始める前に、どのような結果を求めたいかをご説明いただけたので作業だけをやるということにならず理解いたしました。
- 今まで行ってきた SPSS 等のソフトで入力、解析するという工程をかみ砕いて基礎から学ぶことができました。
- 普段 SAS プログラムにまかせてしまっている解析の中身を手を動かして知ることができてよかった。臨床試験で使用されるランダム化を模擬的に体験できてよかった。

■ 統計的仮説検定と信頼区間

- p 値の捉えかたの認識を改めることができた。
- 日常生活の中で確率と率を混同していたことに気づきました。違いを理解することができ、良かったです。
- 帰無仮説、対立仮説はよく分からなくなりがちですが、時間をかけて解説して下さったので理解が深まりました。
- 発生割合と発生率について違いを丁寧に説明いただけたので理解できました。
- t 検定の理屈が学べて勉強になりました。

■ カード実習 2

- ランダムサンプリングによる実習（参加者個々人で使用するデータが違う点）で学ぶことができ、いい経験となりました。
- 箱ひげ図の見方や外れ値の理解を深めることができた。
- SAS の使用経験はありましたが、グラフを描画したり、t 検定の値を求めたりしたことがなかったので、実際に挙動を見ることが出来て、理解が深まったように思います。
- α エラー、 β エラーについて実際に手を動かすことでよく理解できた。
- 20 例の事例でも信頼区間が真値を含まない事例があって、視覚的に理解しやすかった。また SAS を導入したばかりの初心者だったが、今回繰り返し統計量や t 検定を算出し、次にもっといろいろやってみようという気になった。